

プログラム

2018年1月16日(火)

13:00 ~ 13:10	オープニング 伊佐 正 (京都大学)	
13:10 ~ 15:00	Session 1 「発生」 座長 佐々木 えりか (実験動物中央研究所)	
◆ S1-1	サル類における基盤的発生工学技術との凍結保存技術について 外丸 祐介 (広島大学)	16
◆ S1-2	サル類における基盤的発生工学技術との凍結保存技術について 黒滝 陽子 (実験動物中央研究所)	17
◆ S1-3	シングルセル解析によるマーモセット生殖細胞発生の理解 渡部 聡朗 (実験動物中央研究所)	18
◇ P3	Derivation of transgene-independent marmoset iPS cell lines: Application for in vitro analysis and reproductive usages 吉松 祥 (慶応義塾大学)	40
◇ P4	コモンマーモセット着床前胚における内部細胞塊の分子的多様性 西川 泰輔 (慶應義塾大学)	41
15:00 ~ 15:15	休憩	
15:15 ~ 16:15	特別講演 座長 伊佐 正 (京都大学)	
◆ 特別講演 1	ヒト生殖細胞の試験管内誘導に向けて：霊長類を用いた発生生物学の基盤形成 斎藤 通紀 (京都大学)	12
16:15 ~ 18:00	基盤技術チュートリアル 「麻酔・行動トレーニング・健康管理」 座長 中村 克樹 (京都大学) 井上 貴史 (実験動物中央研究所)	
	【実践的な麻酔法】	
◆ T1	東京慈恵会医科大学におけるマーモセット麻酔管理の実際 小泉 誠 (東京慈恵会医科大学)	30
◆ T2	PET・MRI 研究におけるコモンマーモセットの麻酔呼吸管理 川崎 章弘 (理化学研究所)	31
	【行動課題の訓練法】	
◆ T3	マーモセットの行動訓練 山崎 由美子 (慶應義塾大学)	32
◆ T4	タッチスクリーンを用いた実験でのマーモセットの訓練方法 竹本 篤史 (京都大学)	33
	【体調不良個体の処置】	
◆ T5	コモンマーモセットの疾患予防と治療 峰重 隆幸 (実験動物中央研究所)	34
◆ T6	京都大学霊長類研究所におけるマーモセットの日常管理と治療 石上 暁代 (霊長類研究所)	35

2018年1月17日(水)

9:00 ~ 10:50 **Session2 「創薬・トランスレーショナル・病態モデル」**
 座長 山崎 由美子 (慶応義塾大学)
 尾上 浩隆 (京都大学)

◆ S2-1 コモンマーモセットを利用した精神疾患創薬トランスレーショナル研究
 池田 和仁 (大日本住友製薬(株)) 19

◆ S2-2 多能性幹細胞から隣β細胞への分化誘導と再生医療への展望
 桑 昭苑 (東京工業大学) 20

◆ S2-3 高次な社会性を持つ霊長類の環境影響による初めての自閉症モデル
 一戸 紀孝 (国立精神・神経医療研究センター / 理化学研究所) 21

◇ P30 ポリグルタミン病マーモセットの病態解析
 野上 尚武 (国立精神・神経医療研究センター)67

◇ P39 Common marmoset as a human T-cell leukemia virus type-1 carrier model
 廣瀬 理沙 (東京大学) 76

10:50 ~ 11:00 休憩

11:00 ~ 12:00 **特別講演**
 座長 尾上 浩隆 (京都大学)

◆特別講演2 生体リズムの分子機構
 岡村 均 (京都大学) 13

12:00 ~ 13:00 休憩

13:00 ~ 14:50 **Session3 「生理指標」**
 座長 三浦 健一郎 (京都大学)
 伊佐 正 (京都大学)

◆ S3-1 自由行動下における皮質脳波・筋活動の同時記録
 梅田 達也 (国立精神・神経医療研究センター) 22

◆ S3-2 運動制御機構からみたマーモセット
 近藤 崇弘 (慶應義塾大学) 23

◆ S3-3 マーモセットを用いた電気生理学的研究
 瀬瀬 大輔 (生理学研究所) 24

◇ P40 Marmoset as a model for human speech perception and its disorder
 坂野 拓 (University of Pennsylvania) 77

<p>.....</p>	
◇ P44	Similarity and differences in saccadic behaviors in common marmosets and macaque monkeys Chih-Yang Chen (Kyoto University) 81
14:50 ~ 15:05	休憩
15:05 ~ 16:55	Session4 「二光子イメージング」
座長	渡我部 昭哉 (理化学研究所)
◆ S4-1	マーモセット上肢運動課題実行中の2光子イメージングに向けて 松崎 政紀 (東京大学) 25
◆ S4-2	覚醒マーモセットの脳皮質体性感覚野におけるマルチスケールイメージング 松本 圭史 (実験動物中央研究所 / 理化学研究所) 26
◆ S4-3	マーモセット視覚野における広域および2光子カルシウムイメージング法の確立 松井 鉄平 (東京大学) 27
◇ P54	Calcium imaging in marmoset neocortex under awake and anesthetized condition 定金 理 (理化学研究所) 91
◇ P55	化学遺伝学とPETイメージングの融合による黒質線条体ドーパミン神経活動制御 南本 敬史 (放射線医学総合研究所) 92
16:55 ~ 17:25	話題提供 小田 淑子 (関西大学)
17:25 ~ 18:50	ポスター 37
18:50 ~ 19:00	ポスター撤去
19:00 ~	懇親会

2018年1月18日(木)

国際シンポジウム

8:50 ~ 9:00	Opening Remark	
9:00 ~ 10:40	Session 1 "Eye movement and oculomotor control"	
	Chair	Tadashi Isa (Kyoto University)
	◆ IS1	Training of marmoset monkeys on oculomotor tasks Stefan Everling (Western University, Canada) 100
	◆ IS2	Functional mapping for the cortical network of active visual exploration in the marmoset Takaaki Kaneko (RIKEN, Japan) 101
	◆ IS3	Free-viewing for schizophrenia research in humans and marmosets Masatoshi Yoshida (National Institute of Physiological Science, Japan) 102
10:40 ~ 10:50	Break	
10:50 ~ 12:30	Session 2 "Developmental engineering"	
	Chair	Erika Sasaki (Central Institute for Experimental Animals)
	◆ IS4	Factors affecting the outcome of sperm and spermatid injection Atsuo Ogura (RIKEN, Japan) 103
	◆ IS5	Pluripotent stem cells in human and common marmoset Yasuhiro Takashima (Kyoto University, Japan) 104
	◆ IS6	A blueprint for primate preimplantation development Thorsten Boroviak (University of Cambridge, UK)105
12:30 ~ 13:30	Lunch	
13:30 ~ 15:10	Session 3 "Brain Mapping"	
	Chair	Hideyuki Okano (RIKEN/Keio University), Noriyuki Kishi (RIKEN)
	◆ IS7	Disease Modeling and Brain Mapping using genetically modified marmosets Hideyuki Okano (RIKEN/Keio University, Japan)..... 106
	◆ IS8	Brain Connectomics in Primates Takuya Hayashi (RIKEN, Japan) 107
	◆ IS9	Constructing an MRI-Based Connectome for the Marmoset Brain: Methods and Initial Results Afonso C. Silva (National Institutes of Health, USA) 108
15:10 ~	Closing Remark	